

☆Live Bar雷神Presents : ばぐーす長谷川のロック向上委員会☆

『第6回 : Go To The Swamp』

～合言葉はルーツ・アーシー・スワンプの巻～

今回のテーマはGo To The Swamp !

実際問題、なかなか海外へ行くことが許されない状態ではありますが、音楽を聴くことで「その地」を感じることはいつでも可能！例え新たなパンデミック現象が起ころうとも、音楽を聴くことに制限が入ることはありません。ということで、あなたなら何処へ行きたいですか？

今回、私ばぐーすは【Swamp=沼地・湿地】という名の付く音楽を紹介します。地域で言えばアメリカ南部：ミシシッピ川の周辺からアラバマ～フロリダ辺りでしょうか。他にもBayouという言葉がありますが、ミシシッピ州のことをBayou Countryとも言うのです。

・湿地の音楽？

音楽におけるSwampとはBlues/Gospelといった黒人音楽が基本にあり、そこにアメリカ南部の土着な音楽（所謂Folk Song）や白人のCountry Musicが結びついて出来た音楽のことを言います。60年代後半～70年代初めにシーンとして確立されており、南部出身のアーティストを中心に、自らの原点となるロックと黒人音楽を併せ自然に発生された音楽のことです。

なんだか小難しいように感じるかもしれませんが、まずは「音」を楽しみましょう。「音」を聴いて感じる事が重要です。そして、少しでも興味が湧いてきたらドゥプリと【Swamp=沼地・湿地】に浸かってみましょう！！湿地の音は臭いかもしれませんが（笑）。

■マッスル・ショールズ第1弾

1: CHER / For What It's Worth (3614 Jackson Highway : 1969)



ソニー&シエール、そして80年代以降はDance Musicでヒットを飛ばしたCHERが69年にリリースした名盤。マッスルショールズ・サウンド・スタジオ設立後の第1弾として作られたアルバムで、記念碑的作品と言えるだろう。ボブ・ディランやバッファロー・スプリングフィールドのカヴァーの他に、サザン・ソウルの名曲満載な作品となっており、米英のミュージシャンがマッスルショールズで作品を作るようになる先駆けとなったアルバムだ。

<https://www.youtube.com/watch?v=N0vMx373bFk>

■スワンプ・ロックの源流

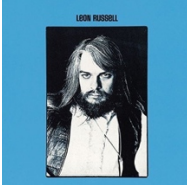
2: Delaney & Bonnie And Friends / Groupie (Super Star) (D & B Together : 1972)



米Swamp Musicを世界に広めた張本人：デラニー&ボニーのラスト作。夫婦仲の問題から始まり、紆余曲折を経てやっとリリースされた背景があり、そのせいで「寄せ集め」的な作品となっている。しかし実際の内容は素晴らしいのでご安心を。参加したミュージシャンも華やかで、エリック・クラプトン、レオン・ラッセル、デュアン・オールマン、キング・カーティス、ビリー・プレストン、スティーヴ・クロッパー、他多数のゲストが作品を彩っている。

<https://www.youtube.com/watch?v=5G0UWRktOAO>

3: Leon Russell / Roll Away The Stone (Leon Russell : 1970)

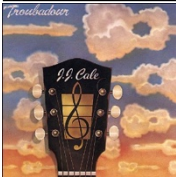


一世を風靡したLA Swampのリーダー：レオン・ラッセルのソロ1st作であり、Swamp Rockの集大成と言っても過言ではない大名盤。自身のレーベル：シェルター・レコードとしても記念すべき第一号作だ。参加メンバーも派手で、英米ロック界の全能力が集結したような作品である。この後も2nd、3rdと名作を生み、それらを総括した怒涛のライブ・アルバムをリリース。これが70年代のロックだ！と声を大にして言いたい名作ばかりである。

<https://www.youtube.com/watch?v=-k8HCUexXUs>

■シェルター・レコード

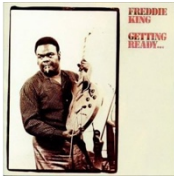
4: J. J. Cale / Cocaine (Troubadour : 1976)



独特なSwamp感覚でミュージシャンを魅了するJ.J. Caleの4th作。独特の浮遊感やスカスカな中での密度のバランスが他のアーティストとは一線を画しており、好きになったら病み付きになる中毒性を持った音楽と言えるだろう。クラプトンが崇拜しており、この作品からも「コカイン」をカバーし大ヒットさせている。コンポーザーとしても、ギタリストとしても優れており、ミュージシャンズ・ミュージシャンとして輝く偉人である。

<https://www.youtube.com/watch?v=wNUJSuO-lgw>

5: Freddie King / Palace Of The King (Getting Ready : 1971)



ブルース界の3大キング：フレディ・キングがシェルター・レーベルからリリースした1st作。プロデュースはレオン・ラッセルとドン・ニックス。フレディのアーシーな面を上手く露出させた名盤と言えるだろう。シェルター在籍は1971年～73年までと短いですが、Swamp Rockファンにとって重要となる作品を3作残している。ちなみにこの作品、Swamp系・White Blues系ファンからは人気が高いが、コアなBluesファンからはソッポを向かされている。

https://www.youtube.com/watch?v=Cf8Rfn22_C8

6: Don Nix / Golden Mansions (In God We Trust : 1970)



Swamp Rockの巨匠：ドン・ニックスのソロ1st作。録音はマッスルショールズ・サウンド・スタジオ、リリースはシェルター・レーベルから。アレンジとプロデュースはドン本人が行っている。ドンらしいゴスペルの感性が全面に出た作品であり、ドン自らのアレンジはもちろんのこと、マッスルショールズの面々によるアーシーなサウンドが堪らない。Swamp Rockの歴史的名盤として、今もなお多くの人々に愛され続けている作品だ。

<https://www.youtube.com/watch?v=aRZAjAwVjpQ>

■実はここにもSwampの影

7: Beck, Bogert & Appice / Sweet Sweet Surrender (Beck, Bogert, Appice : 1973)

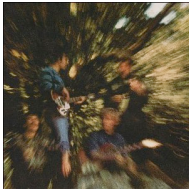


ベック・ボガート&アピスのオリジナルアルバム唯一作。ジェフ・ベック・グループ第二期にはGoing Downを、ここではBlack Cat Moan、Sweet Sweet Surrenderといったドン・ニックスの曲を取り上げており、ドンはプロデューサーとしても参加。実はかなりSwampに接近した作品だ。演奏が演奏なだけにHard Rock的解釈がされているが、実はジェフ・ベック・グループ第二期と同等のSouthern Soul/Swamp Rockのテイストを加えたかったことが分かる。

<https://www.youtube.com/watch?v=i9CIGE1YISA>

■西海岸からSwampしよう

8: CCR / Born On The Bayou (Bayou Country : 1969 / 2nd)



西海岸のバンドだが、アメリカ南部/Swamp Rockの伝道者として大きな軌跡を残したバンド：CCRの2nd作。特にこの作品はズブズブ・ヌメヌメさに拍車を掛けており、CCRが何たるかを知らしめる素晴らしい作品に仕上がっている。漲るエネルギーの放出、凄まじいグルーヴ感は唯一無二。評論家が「悪魔のリズム」と評したグルーヴが凝縮された名盤中の名盤である。

<https://www.youtube.com/watch?v=fcTQCNntGEs>

■時を越えて：大御所による現代Swampの在り方

9: Elton John / Leon Russell / If It Wasn't For Bad (The Union : 2010)



レオン・ラッセルがレコード契約を失っていることを知ったエルトン・ジョンから共演を申し入れ作られたアルバム。曲はエルトン・ジョン作が多いが、全体的な雰囲気はレオン・ラッセルのものと言っていいだろう。かなりルーツに忠実な内容で、Gospel、Blues、Countryがごちゃ混ぜになった様は「これぞ現代のSwamp Music」と唸らずにはいられない。エルトン・ジョンがアイドルと呼ぶレオン・ラッセルに、近付いた瞬間が収められた記念すべき作品だ。

<https://www.youtube.com/watch?v=AWwleoFpbpU>